



日本考察

令和6年3月16日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

近代日本は、都市文化と生活において、自己の社会と生活を構築し、自己のルーツとバックグラウンド、西洋の自由主義と人道主義とのコンビネーションとコントラストにおいて、新しい自己の形成を有するものである。

これらは過去と今日の葛藤と矛盾は、既存文化基盤における自己の永続と、敗戦と新しい国家という現実の相剋が、未だ存在することを意味する。

唯一留意すべきは、戦後の敗戦からの西洋への追従から、独自生活と社会の育成と形成が今日存在することなのである。

これらは東洋と西洋の文化の混在が、独自現実と社会の形成を有することなのである。

これらは独自社会と生活という現実が、新しい未来を模索しているという現実は、経済と政治などの世界への潮流とともに、変化という新しい自己を有するのである。

これらは日本人の独自歴史と文化性は、彼らの社会と生活の基盤であることは真実なのである。これらは西洋の価値観を受け入れ、独自社会と生活を形成し、時代と世界という変化への参加を模索しているのである。

これらは必ず社会と生活が独自価値観の形成を有することであり、都市という現実、自己の独自社会と生活サイクルを有することなのである。

これらは西洋という絶対的な現実に対して、自己の独自性が新しく存在することであり、自己の独自性との相違は彼らの葛藤なのである。

これらは、彼らが新しい未来を模索しているものであり、葛藤と矛盾は未来という彼らの新しい現実の創造への手段であると考えられる。

これらは隷属と独立、自立と依存は、日本が置かれた現実であり、これらは彼らが新しい自己の選択を求められていることは真実なのである。

